

盲学校理科実験・観察準備の工夫の再確認(2)

筑波大学附属視覚特別支援学校

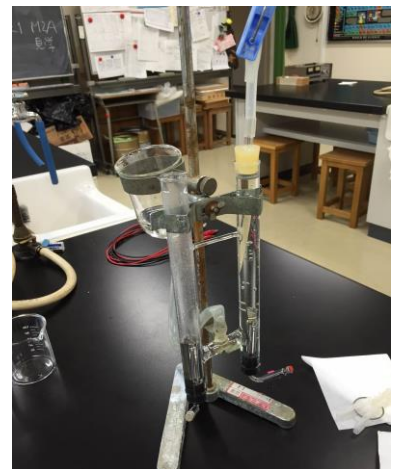
柴田 直人

盲学校の理科実験・観察では、視覚障害のある児童・生徒が楽しみながら主体的に取り組めるように、また、安心・安全に十分に配慮して準備を行うことが重要です。児童・生徒は、視覚障害があるために「一目瞭然」とはいかないため、手で触ったり目を近付けたりして、実験・観察の器具・薬品等の位置、形状などを一つ一つ確かめていきます。落ち着いて実験・観察に取り組むためには、十分に時間を確保することも大切です。

前号のミニレターに引き続き、盲学校理科実験・観察準備の工夫について、御紹介します。

- ① 原則として、一人に一つずつの器具等を準備する。
- ② 両手で探せる範囲に器具等を準備する。
- ③ 目を近付けなくとも、手で探索してすぐに把握できるような工夫をする。
- ④ 理科実験・観察用の特別な道具ではなく、日常生活で使い慣れている道具を用いることによって、安心・安全に、効率よく目的を達成できるようにする。

右の写真は、中学生の電気分解の実験（担当：濱田志津子教諭）で使用する H 型ガラス管の準備の様子です。H 型ガラス管は、一般的に使用されている物と同じです。



下の写真は、電極の先を拡大したものです。片側の電極にだけ、小さなシーが貼られています。このシーは紙ではなく、フェルト製で、指で触って分かりやすいものです。シーが貼られた側を陽極（または陰極）と初めに決めておけば、友達や教員にいちいち聞かずに

も、把握することができます。器具や薬品に目を近付け過ぎることによってけがをする恐れもありますから、安全にも配慮されている工夫と言えます。もう一つの工夫は、H 型ガラス管上部のゴム栓につないだシリコン管の先端の閉じ方にあります。ここでは、ピンチコックでなく、洗濯ばさみで管を閉じています。日常生活で使い慣れた道具を使えば、操作も簡単で戸惑うこともなく、必要な目的を十分に達することができます。

